

当院の血液培養における過粘稠性 *Klebsiella pneumoniae* の分離状況

◎田邊 詩有¹⁾、鈴木 彩加¹⁾、山崎 裕貴¹⁾、川島 千亜紀¹⁾、林 晃司¹⁾、寺田 さと子¹⁾
社会医療法人 杏嶺会 一宮西病院¹⁾

【背景と目的】過粘稠性 *Klebsiella pneumoniae* は肝膿瘍や、眼内炎、髄膜炎といった侵襲性の高い疾患を引き起こすことが知られている。今回我々は当院での過粘稠性 *Klebsiella pneumoniae* の分離状況について調査したので報告する。

【対象と方法】当院で2022年4月から2024年4月に血液培養より分離した *Klebsiella pneumoniae* 137株を対象とした。String test 陽性となったものを過粘稠性 *Klebsiella pneumoniae* と判定し、分離した患者の基礎疾患、膿瘍の有無、薬剤感受性を調査した。

【結果】String test 陽性となったのは22/137株(16.1%)であった。過粘稠性 *Klebsiella pneumoniae* を分離した22症例では、男性15例、女性7例で年齢は中央値82歳(17~93歳)であった。基礎疾患は高血圧症12例、糖尿病5例、脂質異常症3例などであった。また肝膿瘍2例、前立腺膿瘍1例、腓骨部膿瘍1例、腹腔内膿瘍1例、肛門周囲膿瘍1例、髄膜炎1例認められた。薬剤感受性についてはESBL産生1株(4.8%)であった。

【考察】今回血液由来株を調査し、String test 陽性の割合は16.1%で男性の割合が多かった。これは本邦の既報と一致した。肝膿瘍、肛門周囲膿瘍、腹腔内膿瘍、髄膜炎の各1例では膿瘍培養や髄液培養からも過粘稠性 *Klebsiella pneumoniae* を分離しており、膿瘍形成や播種性病変を起こしやすいと思われた。

【まとめ】過粘稠性株の薬剤感受性は非過粘稠性株に比べて良好との報告があるが、今回の調査では菌株数が少ないのもありその傾向は見られなかった。今後も症例を蓄積し検証したい。また過粘稠性 *Klebsiella pneumoniae* を分離した症例のうち、検体採取時すでにショック状態にあり、重篤な病態を示したものもあった。そのため迅速にString test 陽性の報告をすることは意義があると思われた。

連絡先 0586-48-0070 (細菌検査室 2505)